

## 平成27年度沖縄県学力到達度調査の結果（概要）

義務教育課学力向上推進室

### 1 趣 旨

沖縄県学力到達度調査は、本県児童生徒一人一人の基礎的・基本的な知識・技能及びこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の定着状況を把握するとともに、各学校における授業改善の充実を図るために実施する。

2 実施期日：平成28年2月24日（水）、25日（木）、26日（金）

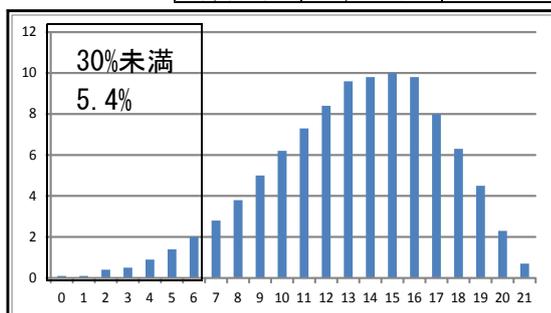
### 3 対象学年・教科

第3学年	国、算	第4学年	算	第1学年	数
第5学年	国、算、理	第6学年	算	第2学年	国、社、数、理、英

### 4 実施結果

#### 〈 小学校第3学年国語 〉

	児童数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	15,438人	63.4%	32.6%	4.0%



正答数の度数分布

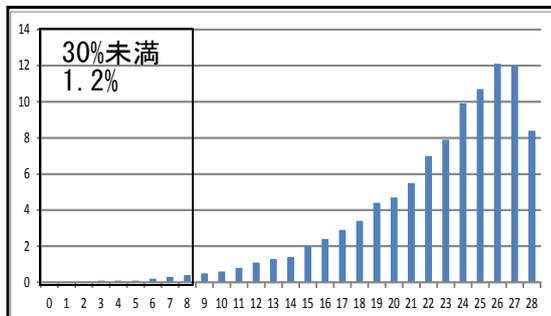
□難易度等を勘案すると妥当な正答率と言える。しかし、30%未満の割合が若干高く、低学年の取組を更に強化する必要がある。

○三(2)「漢字の画数を正しく理解する」正答率28.7%。「式」の二画目について答える問題である。  
○八(3)「書こうとすることの中心を明確にし、目的に応じて理由などを書く」正答率29.2%。伝えたい内容が十分に伝わるように、各段落の内容の中心を整理して書かせる活動を充実させる必要がある。

全体的な状況と正答率が低かった設問

#### 〈 小学校第3学年算数 〉

	児童数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	15,440人	80.7%	18.5%	0.8%



正答数の度数分布

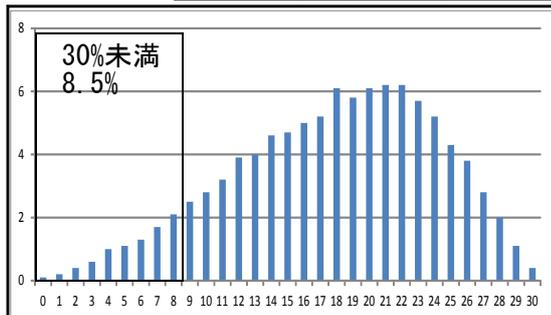
□算数も、国語と同様に難易度等を勘案すると妥当な正答率と言える。無解答率や30%未満の割合も低く、良い傾向と言える。

○17(2)「円の構成要素と正三角形の定義を理解しているか」正答率53.5%。この問題は、半径と直径の関係をもとに、3つの円の中心を結んだ正三角形の辺の長さの合計を求めるものである。半径や直径、正三角形を関連付けて、答えを導くことに課題がある。

全体的な状況と正答率が低かった設問

#### 〈 小学校第4学年算数 〉

	児童数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	14,827人	59.5%	35.5%	5.0%



正答数の度数分布

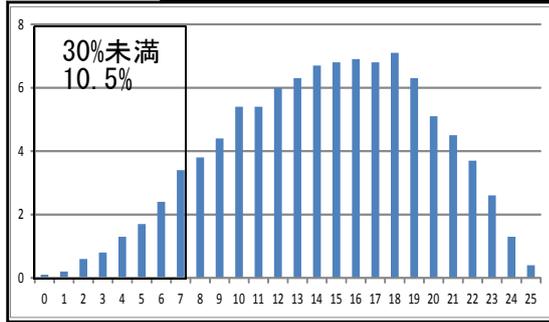
□複数の答えを選択する問題（完答）や、文章で答える問題を多目に出題するなど、難易度を若干高めたことにより、正答率が低くなった。題意や正答の条件等を理解し、しっかり考えさせる活動を充実させる必要がある。

○13(1)「ひし形の特長をとらえ、弁別することができる」正答率19.6%。  
○19(2)「グラフを読み取ったり、特長を調べたりすることができる」正答率33.5%。

全体的な状況と正答率が低かった設問

〈 小学校第5学年国語 〉

	児童数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	15,062人	57.7%	34.0%	8.3%



正答数の度数分布

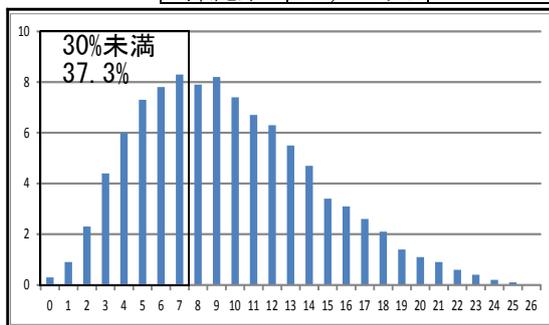
□文章などの情報量を増やすなど難易度を高めたことを勘案すると、正答率は妥当と言える。しかし、無解答率や30%未満の割合については課題がある。題意を的確に捉えたり、文章をスピーディーに読み取ったりする学習を充実させる必要がある。

○四(4)「文中における主語と述語を捉える」正答率10.4%。  
○九(1)「必要な情報を抜き出し、理由を明確にして話すことができる」正答率30.8%、無解答率30.7%。

全体的な状況と正答率が低かった設問

〈 小学校第5学年算数 〉

	児童数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	15,072人	37.1%	49.5%	13.5%



正答数の度数分布

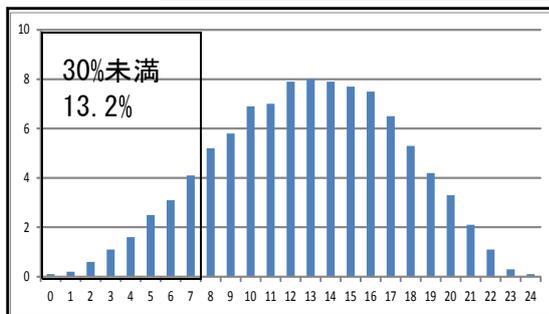
□授業の中で適応問題を扱うことを意識させるために、適応問題を含め活用的な問題を増やすなど、難易度を意図的に高めた。その結果、正答率は予想よりはるかに低くなり、無解答率や30%未満の割合も高くなった。

○14(4)「単位量当たりの大きさを求めて判断したことを、言葉等を用いて記述する」正答率3%。無解答率56%。  
○5「倍数について理解している」正答率17%。

全体的な状況と正答率が低かった設問

〈 小学校第5学年理科 〉

	児童数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	15,102人	53.5%	44.3%	2.2%



正答数の度数分布

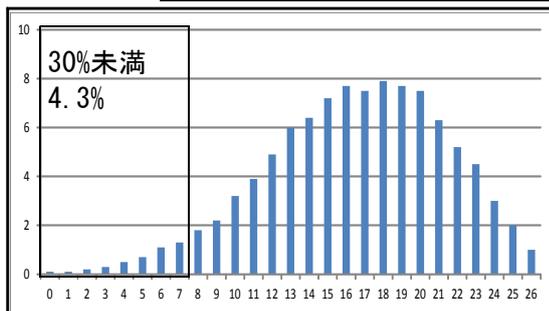
□難易度等を勘案すると妥当な正答率と言える。30%未満の割合は高いが、無解答率は比較的良好で、児童が問題と向き合い、一生懸命に答えたことが伺える。

○6(1)「百葉箱の名称を理解している」正答率22.3%。  
○7(2)「流れる水には、石や土などを運搬したり、堆積したりする働きがあることを理解している」正答率25.4%。

全体的な状況と正答率が低かった設問

〈 小学校第6学年算数 〉

	児童数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	15,172人	63.5%	32.7%	3.8%



正答数の度数分布

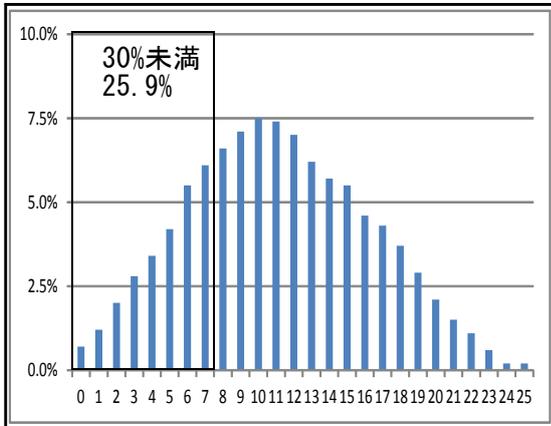
□正答率の期待値は60%台後半だったが、実際は63.5%となった。ただ、6年生は全国学力調査でも、都道府県順位でA問題6位、B問題22位と健闘した学年であり、1年が経過した現時点でもよい傾向を示していると言える。

○11(1)「示された情報から基準量を求める場面を捉え、比較量と割合から基準量を求める」正答率20.7%。  
○14(1)「図形についての構成について」正答率25%。無解答率12.3%。

全体的な状況と正答率が低かった設問

〈中学校第1学年数学〉

	生徒数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	14,361	44.5%	42.0%	13.5%



正答数の度数分布

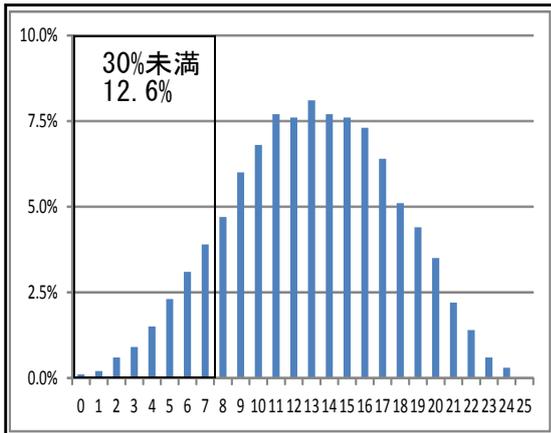
□問題の難易度からすると正答率 60 %を期待値とするが、結果は 44.5 %とかなり厳しい状況である。

- 6(1)「回転してできる立体の体積を求める」正答率 10 %、無解答率 26.1 %。
  - 5(1)「円錐の表面積を求める」正答率 15.7 %。無解答率 18.2 %。
  - 1(3)「指数を含む正負の乗法の計算ができる」正答率 32 %。
  - 1(4)「一次式の計算ができる」正答率 26.4 %。
- 以上の問題は、すべて習得型で基本的な問題である。それにも関わらず、正答率が低い。授業で生徒に考えさせ、納得させる活動が十分でないことが考えられる。

全体的な状況と正答率が低かった設問

〈中学校第2学年国語〉

	生徒数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	14,779	52.1%	41.1%	6.9%



正答数の度数分布

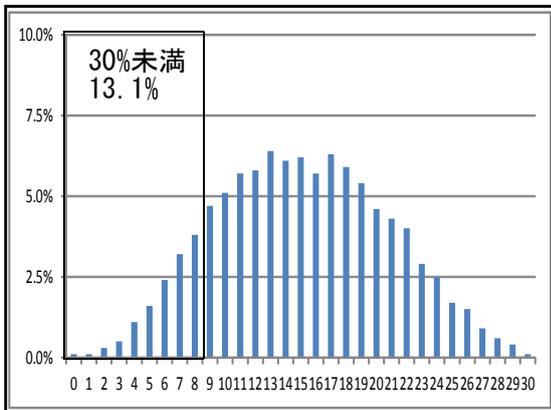
□難易度からすると正答率は妥当と言えるが、無解答率が高いことから、授業において、条件に基づいて自分の考えを書かせる際に、視点を明確にした「書く活動」を計画的・継続的に取り入れ、充実させることが必要である。

- 十一(3)「多様な方法で選んだ複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えをまとめる」正答率 15.6 %。
- 三(1)「文脈に即して、漢字を正しく書く」正答率 16.4 %。「そむく→背く」の正答率が低いのは、生徒が日常生活であまり使っていないことが要因と考えられる。

全体的な状況と正答率が低かった設問

〈中学校第2学年社会〉

	生徒数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	14,718	50.4%	43.2%	6.4%



正答数の度数分布

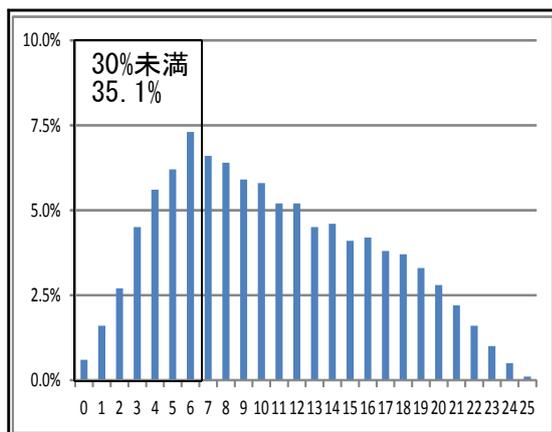
□文字数など情報量はかなり多いが、難易度からすると正答率の期待値は 60 %。実際は 50.4 %と、予想を 10 %も下回る低い結果になった。無解答率も 6.4 %と高い。

- 7(4)「鎌倉時代から室町時代までの歴史がわかる」正答率 14.7 %。
- 7(2)「日明貿易の特色を理解し、表現できる」正答率 19.4 %、無解答率 19.9 %。
- 3(1)「ヨーロッパの気候帯の特徴である西海岸性気候について説明することができる」正答率 25.3 %。

全体的な状況と正答率が低かった設問

〈中学校第2学年数学〉

	生徒数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	14,705	42.7%	46.5%	10.8%



正答数の度数分布

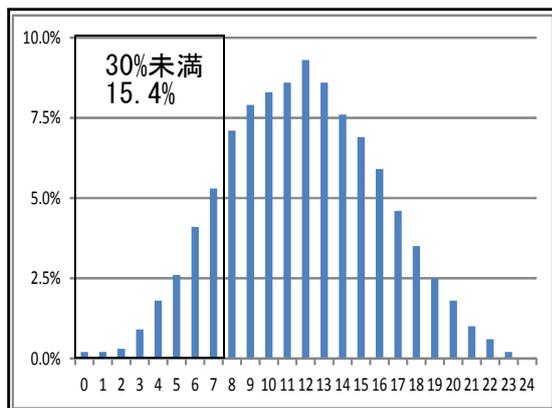
□正答率は42.7%と低いことも課題だが、度数分布の形状が左側に偏っていることも大きな課題である。そのため、30%未満の割合も極端に高く、数学の改善が進んでいない状況である。

- 7(1)「数量の関係を文字式に表すことができる」正答率5%。
  - 14(1)「一次関数の表の特徴を基に変化の割合を求めることができる」正答率14.5%。
  - 3(1)「分数を含む一元一次方程式を解くことができる」正答率32.6%。
  - 4(1)「連立二元一次方程式を解くことができる」正答率24.8%。
- 習得型の問題に依然として課題がある。

全体的な状況と正答率が低かった設問

〈中学校第2学年理科〉

	生徒数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	14,743	49.4%	47.1%	3.5%



正答数の度数分布

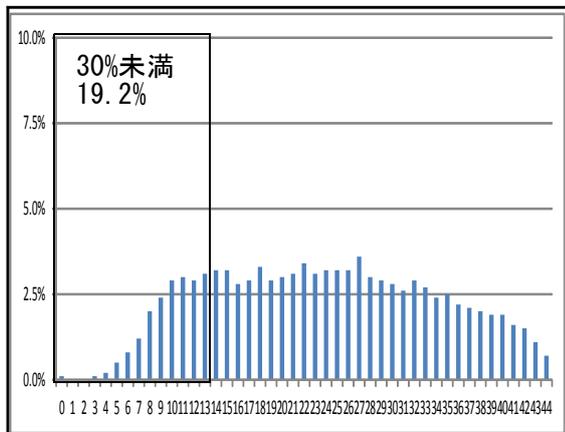
□度数分布の最大値は12問であるが、それより左側に膨らみがあるため、平均正答率は50%を若干下回っている。無解答率や30%未満の割合は、改善傾向にある。

- 6(2)「化学変化で反応する物質の質量比が一定であることから、酸化銅と反応する炭素の質量を求めることができる」正答率5.6%。
- 8(2)「蒸発量と降水量の関係から陸地の降水量を求めることができる」正答率20.5%。無解答率12.8%。

全体的な状況と正答率が低かった設問

〈中学校第2学年英語〉

	生徒数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	14,756	53.9%	43.1%	2.9%



正答数の度数分布

□問題数(44問)等を勘案すると、妥当な正答率と言える。無解答率も2.9%と低く、生徒が問題と対峙して懸命に答えていることが伺える。しかし、30%未満の割合が高いのが課題である。今後とも、「聞く、話す、読む、書く」の4技能を高める指導を、授業において意図的・計画的に充実させる必要がある。

- 7(4)「代名詞 (we) の所有格を正しい綴りで書くことができる」正答率20%。
- 7(3)「一般動詞 (study) の ing 形を正しい綴りで書くことができる」正答率23%。

全体的な状況と正答率が低かった設問

5 今後の取組

学力向上推進室は、調査の全体的な状況、各教科別の分析及び授業改善の方策等の資料提供や改善を図るための確認問題等を学校に提供する。学校は、春休みに補習指導を実施したり、推進室作成の問題や自校で作成した問題を春休みに課題として与え、新年度当初に定着状況を確認する。